

真宗大谷派(東本願寺)

真宗大谷派(東本願寺 京都市下京区)では、御影堂内の菱灯籠の一部を消灯し節電に努めるとともに、宗務所館内の会議室やトイレ等の使用時以外の消灯を徹底し、昼の休憩時でも、各部署の業務に支障のない範囲で消灯するよう心掛けております。

また、最も電力を消費する職場の空調につきましても、設定温度を 28 度とし、空気の循環効率を上げるため、扇風機をサーキュレーターとして使用し、節電に努めています。

昨年より職員の執務中の服装をノーネクタイとし、内部の諸会議では間衣を依用しないとするなど、宗務所内でのクールビズを実施するとともに、宗務所建物の温度上昇抑制を図るため、直射日光の当たる壁面にグリーンカーテン(朝顔・ゴーヤ)を設置する等の取り組みを継続して行っております。

次に、御修復工事を行っている阿弥陀堂を覆う素屋根(建物を保護し、安全で効率的な作業環境を保ちつつ、完成したときには取り払ってしまう仮の屋根)に、環境に配慮した 3 つの工夫を施しております。

1 つ目は素屋根内に自然光を取り入れることにより、照明電力を削減しております。2 つ目は素屋根上部に太陽光パネルを設置し、発電した電力は素屋根の照明に利用しております。3 つ目は、素屋根に降る雨水をタンクに貯水し、素屋根に散水することによって、内部の温度上昇を防いでおります。

「環境配慮型の修復」をコンセプトとして、無駄なエネルギーを極力省きながら、工事を進めております。

その他として、従来から境内正面に設置しております法語行灯には、太陽光パネルを備え付け、必要な電力を賄っております。通常の電力供給に比べ、電力の使用量を大幅に削減し、環境に配慮した夜間照明としても使用しております。

最後に、真宗大谷派宗務所では 2010 年に寺院としては初めてとなる KES(京都・環境マネジメントシステム・スタンダード)ステップ 1 を取得いたしました。当規格を取得するため、宗務所内で

- ①電力使用量の 1%削減(前年比)
- ②事務用紙使用量の 1%削減(前年比)
- ③環境教育・啓発活動の実施

という 3 つの目標を設定し、職員一人ひとりが環境負荷の低減に努力することを宣言いたしました。

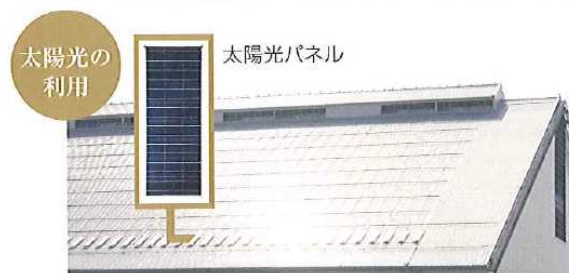
素屋根について

素屋根とは、修復作業中の風雨を防ぎ、建物が保護された状態で作業を行える環境をつくりだすものです。これにより安全で効率的な御修復工事を行うことができます。



環境への配慮

御修復工事は「環境配慮型の修復」をコンセプトに据え、修復作業現場となる素屋根に様々な工夫を施しています。



太陽光の
利用

太陽光パネル

素屋根上部に太陽光パネルを設置し、素屋根内の電力として使用しています。



素屋根内に自然光を取り入れ、照明用電力を節減しています。



雨水の
再利用

雨水貯水タンクを設置し、素屋根内トイレや再利用瓦の洗浄水に使用しています。



貯水された雨水を素屋根に散水することにより、内部の温度上昇を防ぎます。

